

河合芳尚の読図ヨリナリ

連載第4回 地形図の勉強事始め

執筆者の紹介

河合芳尚氏は、豊川山岳会のメンバーで、国立登山研修所の安全登山普及指導者中央研修会の読図講師を務めています。コンパスの使い方や地図読みの技術を指導し、登山者の技術向上と安全登山の普及に貢献しています。

尾根と沢

初心者の方が最初につづかる壁は、「尾根と沢」が地図上でよく理解できないことではないでしょうか。

私が作手高校登山部で山田猛先生に教えていただいた方法は、等高線に色を塗る方法でした。計曲線ごと(50m間隔)に色を変えて、実際に地図に色を塗りました。すると、円の中心から外に出づつた部分が「尾根」、へこんだ部分が「沢」だということが、次第に分かるようになりました。

また、概念図も描きました。概念図を書くことによって、山城全体のイメージがつかめるため、とても有効でした。おそらく、登山者の多くは山に行く前に地図を見て、頭の中に概念図を描いていると思います。

初心者の方はいきなり尾根と沢を理解できるわけではありませぬ。また、地図を見ただけでは概念図を頭の中に描くこともできません。

創設期の頃の山行計画書

話は変わりますが、豊川山岳会では文集『山路』を作成

しています。創設期から20年ほどの計画書を見てみると、当時の情熱が伝わってきます。特に合宿の計画書には、食糧計画、概念図、エスケーブルート、事前調査の概要などがしっかりと記載されていました。この計画の段階で、実は地図や山城の勉強をしていた、基本が自然と身についたのではないのでしょうか。

一方、現在では地図アプリを使用する多くの人が、他人の活動記録を参考に登山計画を立てています。しかし、これでは地図の勉強にはなりませんね。

「地図の勉強」に王道はなく、「この本を読めばすぐに理解できる」というものもありません。地図に色を塗ったり、概念図を書いたり、登山道の特徴物に印をつけたりしながら、時間をかけて地図と親しむことが大切です。

国体の踏査競技

私が地図を好きになったきっかけは、国体の踏査競技の練習で地図を片手に歩いていたときでした。等高線の微妙

な曲がり具合と、現場の微妙な尾根の膨らみがびつたり一致した瞬間、「国土地理院すげえ」と思い、そこから地図にハマりました。

何度も同じルートを歩いて、やつと気づいた瞬間でした。国土地理院地形図の等高線1本1本に込められた意図を感じる事ができれば、きっと地図が好きになると思います。



ナヴィゲーション講習

ナヴィゲーション講習で村越真さんと一緒に講師をしたことがあります。私が「国土地理院のおつちゃんやんが等高線に気持ちを込めて書いているので、その気持ちが分かると地図が楽しくなるよ」と話したところ、村越さんが「河合

冬山装備のメンテナンス工房

HAREYAMA

なにより「安全」のためです。命を守ってくれる相棒を大切に。

冬山装備のメンテナンス
アイゼン・ピッケル研ぎます

株式会社ウォームリンク
〒470-0135 愛知県日進市岩崎台 1-130
Tel. 0561-72-2805

hareyama.net

さん、それは違うよ。今はリーダーで測定して等高線を書いているよ」と言われ「村越さん、それは知ってるけど：国土地理院のおつちゃんの方がおもしろい」と思いました。だが、オリエンテーリング界の巨匠に対しては、さすがに口に出せませんでした。

今回は「勉強方法に王道なし、興味を持つべし」という精神論で締めくくります。

次回は「地図記号と地図の表記」について触れてみたいと思います。